

聖金曜日（主の受難）の説教

金 大烈 神父 2010年4月2日（金）

《^{かじょうしちごん}架上七言》

イエス様が十字架の上で残した遺言は、いくつあると思いますか？福音によって少し違いますが、全部まとめると七つあります。それらを『架上七言（かじょうしちごん）』と言います。

では、その十字架の上で話された七つの言葉とはどういう言葉でしょうか。すでに皆様ご存じの言葉ですが、一つずつもう一度紹介して、黙想したいと思います。

まず一つ目の言葉です。ルカによる福音の23章34節に、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」という言葉があります。もしかしたら私達も、「分かっている。分かっている。」と言いながら、実際には分かっていないのかもしれませんが、もっと簡単に言えば、私達は神様の愛、イエス様の愛を話していますが、本当にその愛の体験ができているのでしょうか。ただ表面的に、人から聞いたことで、人と一緒に、イエス様の愛を話しているのではないのでしょうか。私たちは、知らないうちにたくさんの罪を犯しています。中でも一番大きい罪は、“愛に反する罪、愛に逆らう罪”です。積極的に罪を犯さなくても、無関心になることや、避けようとすることで、積極的に愛を行うことができなければ、やはり私たちは罪人です。それは無意識の中でも意識の中でも起こる、私たちの一つの弱さだと思います。しかし十字架の上で、「彼らを赦してください。彼らは自分のすることを分かっているのです。」と祈ったイエス様のみ心を少しでも理解できれば、その愛をもう一回感じられるのではないのでしょうか。イエス様が、死ぬ間際に神様に祈った内容は、私たちの赦しを求める祈りでした。その祈りの意味、そのみ心を私たちは図るべきではないかと思います。

さあ、二つ目の言葉です。ルカによる福音の23章43節、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる。」という言葉です。これは、誰に向かって言った言葉でしょうか。イエス様と一緒に、横で十字架につけられた二人の犯罪人のうちの一人におっしゃった言葉ですね。この二人の犯罪人については、昨年説教したと思います。1人は、「本当に全知全能ならば、自分も私たちも救ってほしい。」とからかう態度を見せました。しかし別の一人は「そのような無礼はするな。」と止めると、十字架の上で自分の罪をイエス様に告白します。そして「赦してください。」と願います。その時にイエス様は、「はっきり言うておくが、あなたは今日私と一緒に樂園にいる。」とおっしゃったのです。この言葉は、“私たちはいくら失敗、間違え、罪を犯しても、一回でもまことの悔改めができれば、その罪は赦される”というイエス様の想像もできないような大きい愛を示しているのです。皆様、私たちはがっかりする必要はありません。自分が犯した罪のためにがっかりしないでください。その罪をもっとよい方向に立ち上がるための足場としてください。その意識ができた途端、私たちに“もっと神様の愛に頼ろう”とする心が許されると思います。

三番目の言葉です。ルカによる福音の23章46節に「父よ、私の霊を御手にゆだねます。」という言葉があります。この言葉が発せられるまでに、どのくらいの迷いがあったのでしょうか。たぶん、イエス様は考えられないくらい様々な葛藤、感情の働きを感じられたと思います。私たちもいつか、「父よ、私の霊を御手に委ねます。」という祈りができればよいと思います。しかしこれは、ある日突然できることではありません。信仰の生活の中で、いつも準備する心がなければ、最後の瞬間に「私の靈魂をあなたに委ねます。」という何よりも強い信仰は表せないと思います。皆様、いつか最後の言葉として使えるように準備をしましょう。

四番目です。マルコによる福音の15章34節です。そして同じ内容が、マタイによる福音の27章46節にも書いてあります。これはアラム語です。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」という言葉です。意味はご存知のように「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか。」です。御父の愛を一番よく分かり、信頼しているイエス様が、なぜこのような言葉を叫んだのでしょうか。これはアラム語の味なのですが、逆説的な言い方をよくします。たとえば、「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。(主よ、私をなぜ見捨てられるのでしょうか)」には、「私が今このように逝ってしまうと、残っているこの世の中はどうなるのでしょうか。この世の中の痛みはなくなるのでしょうか。私はこれで自分の使命を果たせたのでしょうか。」という内容が含まれていると聖書学者たちは言っています。そこには、神様への絶対的な信頼とこの世の中のことをいつも心にかけて最後まで心配なさっているイエス様のみ心が表れています。もちろん表面的には『徹底的な孤独感』、『寂しさ』、『痛み』が表れています。しかしその孤独感や痛みの理由は、この世の中に生きている私たちであることをこの言葉を通して黙想してみましょう。

五番目は、ヨハネによる福音の19章26節から27節までの言葉です。今日一緒に読んだ部分です。聖母マリア様への「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。」という言葉と弟子に向かって言った「見なさい。あなたの母です。」という言葉です。誰が私たちの母である聖母マリア様を無視しようとするのでしょうか。新教の一番大きい間違いは、母を追い出したことです。イエス様は、十字架の上でマリア様と私たちをこのように結んでくださいました。「これからはあなたの母です。」「これからこの全ての者があなたの息子、娘になります。」という結びを作ってくださいました。この遺言のようなイエス様のみ言葉をいつも心に刻んで、“ 私たちには何よりも温かい母がいる ” という心をお持ちください。

そして六番目も、今日読まれた言葉です。ヨハネによる福音の19章28節の「渴く」という言葉です。この言葉を聞いて私たちの心に浮かぶのは、「お疲れ様です。感謝します。」というただ一言です。誰のためにこのように渴いているのでしょうか。自分の力ではどうにもできないような難しさに基づくとき、このイエス様が感じられた渴きに私たちも一緒に与ることができれば、難しさを乗り越えられられると確信します。

最後の七番目の言葉です。ヨハネによる福音の19章30節の「成し遂げられた」です。この言葉

には、いろいろな意味が含まれていますね。“喜び”、“「やった」という気持ち”、“「難しかった」という思い”。いろいろな思いが含まれています。この「成し遂げられた」という言葉も、いつか私たちが使わなければならない言葉です。この言葉を思い出すとき、イエス様が命を捧げて、人間が迷いから解放される唯一の道を示してくださったことを確信しなければなりません。「なぜあのようにイエス様は十字架につけられて死んでしまったのか」、「彼はただの人間にすぎなかったのではないか」と言う人がいるとき、私たちはこの「成し遂げられた」という言葉に頼らなければならないでしょう。

皆様、イエス様が十字架上で残してくださったこの七つの言葉は、たぶん印刷されて皆様に配られると思います。しかしその言葉は、ご自分の手で紙に書いて、よく目に入るところに置いてください。そうすれば、いろいろな試練にぶつかったときに、立ち上がれる力が生じると思います。

ありがとうございました。